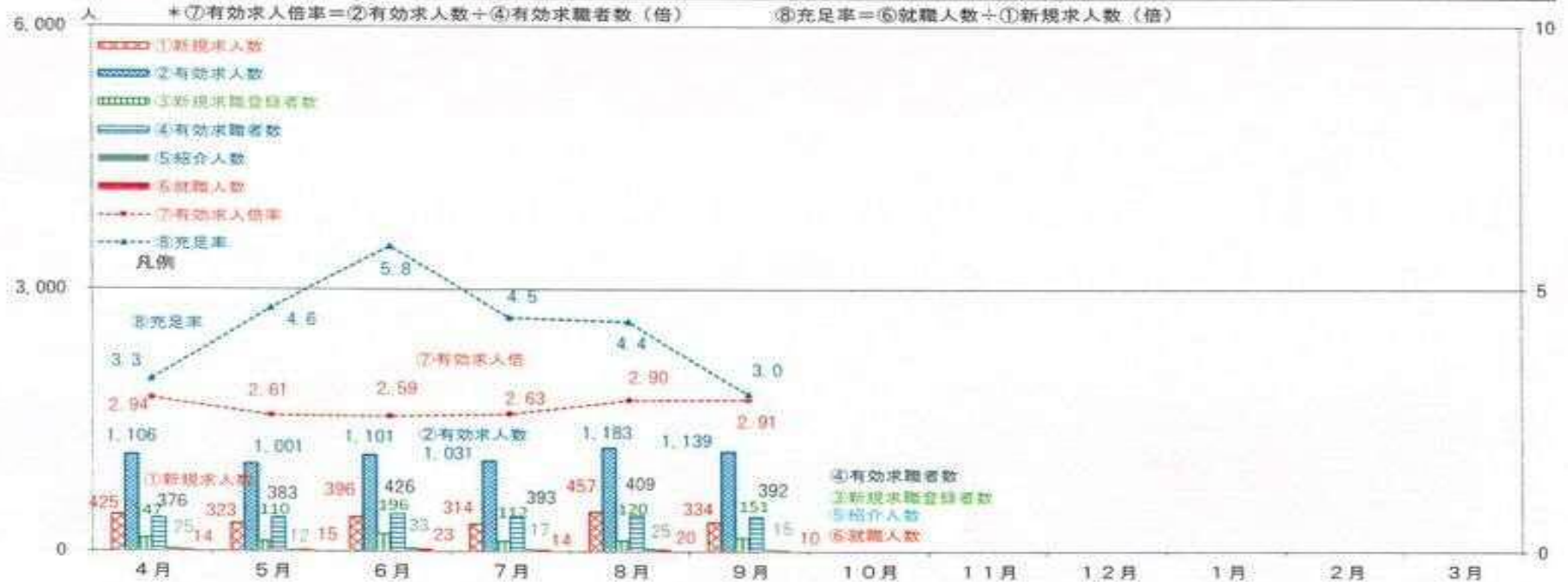


資料1

2021.12.2一般質問：創造浜松 太田 利実保

令和3年度 職業紹介取扱状況（新規求人数、有効求人数、新規求職者登録者数、有効求職者数、紹介人数、就職人数、有効求人倍率、充足率）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
①新規求人数	425	323	396	314	457	334							2,249
②有効求人数	1,106	1,001	1,101	1,031	1,183	1,139							6,561
③新規求職者登録者数	147	110	196	112	120	151							836
④有効求職者数	376	383	426	393	409	392							2,379
⑤紹介人数	25	12	33	17	25	15							127
⑥就職人数	14	15	23	14	20	10							96
⑦有効求人倍率	2.94	2.61	2.59	2.63	2.90	2.91							2.76
⑧充足率	3.3	4.6	5.8	4.5	4.4	3.0							4.3



資料提供：浜松市社会福祉協議会 福祉人材バンク

新型コロナウイルスに対する緑茶の効能研究 (国内)

研究機関	研究内容
①静岡県茶業研究センター 静岡県環境衛生科学研究所 静岡県立大学 (2021年8月論文発表、審査中)	・新型コロナウイルスに対する緑茶の感染阻害効果
②奈良県 奈良県立医科大学 (2020年11月論文発表、論文未発表)	・茶による新型コロナウイルスの不活化効果
③仙台医療センター 東北大学院他 (2021年1月論文発表)	・緑茶のカテキン混合物による新型コロナウイルスの不活化
④京都府立医科大学 株伊藤園 (2021年6月論文発表)	・緑茶カテキン等による新型コロナウイルスの不活化
⑤京都府立医科大学 株伊藤園 (2021年6月論文発表)	・紅茶、緑茶による唾液中の新型コロナウイルスの不活化

①静岡県 (茶研・環衛研・県立大学)

【新型コロナウイルスに対する緑茶の感染阻害効果】

研究機関	研究内容
茶業研究センター	・緑茶の成分分析 ・緑茶成分と感染阻害効果の関係
環境衛生科学研究所 (バイオセーフティレベル3施設)	・緑茶のウイルス感染阻害効果を培養細胞の毒性で確認 ・論文投稿 (投稿済み、学会による査読(審査)中)
静岡県立大学 (共同研究機関)	・感染阻害メカニズムの解析 ・研究の助成

- 今後の予定
- ・論文投稿(8月)⇒審査(1~3カ月程度)⇒受諾⇒学会誌公表
 - ・現は、論文の受諾を確認し、科学的エビデンス(根拠)を有する情報として発表

④京都府立医科大学・株伊藤園

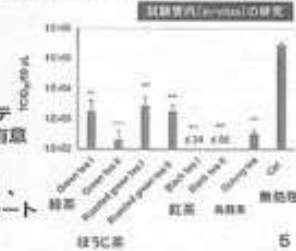
【緑茶カテキン、カテキン誘導体及びガロイル化デアフラビンによる新型コロナウイルスの不活化】

※2021.5.8 論文発表 Pathogens(スイスMDPI社の国際医学情報に関する査読付きジャーナル)

- 緑茶、ほうじ茶、紅茶、高麗茶は、ウイルスの感染価を低下(紅茶は特に低下)

- 成分的には、エピガロカテキンガレート(EGCG)が有意に不活化

- デアシネンシンA (TSA)、デアフラビン3,3'-ジガレート(TFDG)は特に不活化



⑤京都府立医科大学、株伊藤園

【紅茶と緑茶による唾液中の新型コロナウイルスの不活化】

※2021.6.11 論文発表 Molecules(スイスMDPI社の科学に関する査読付きジャーナル)

- 紅茶や緑茶は、ヒト唾液中の新型コロナウイルスの感染価を10秒以内に1/100未満に抑制

- デアシネンシンA (TSA)、デアフラビン3,3'-ジガレート(TFDG)は検出できないレベルまで抑制

- 緑茶と新型コロナウイルス研究のシンポジウム
～ChaOIフォーラム公開セミナー～ (2021年8月6日、静岡県)
京都府立医科大学の松田修教授による講演

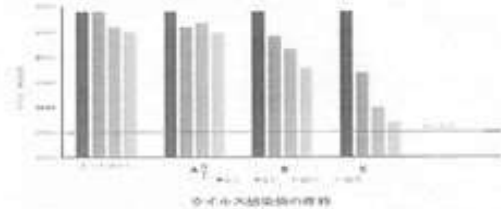
- 茶の飲用により、感染者の唾液中のウイルスが不活化され、飛沫等を通じて周囲の人への感染を抑制する可能性があるため、公衆衛生的に感染拡大を抑えることが期待できる。

②奈良県・奈良県立医科大学

【お茶による新型コロナウイルスの不活化効果】

※2020.11.25 マスコミ発表(論文未発表) 試験管内(In-vitro)の研究

- 新型コロナウイルスと市販の茶を混合し、ウイルスの感染価を測定した結果、B(ペットボトルの緑茶)は1分後に約1/10、C(急須で淹れた紅茶)は約1/100に低下



③仙台医療センター・東北大学院他

【緑茶のカテキン混合物による新型コロナウイルスの不活化】

※2021.1.29 論文発表(日本感染症ジャーナル)

- カテキン混合物の濃度を変え、新型コロナウイルスに処理した結果、ウイルス感染価はカテキン濃度1mg/mlで約1/10、10mg/mlで約1/10,000に低下

